2026 年 1 月号
No. 228

令和 8 年 1 月 29 日
関東中央病院　けやき会

けやき会通信

ごあいさつ

救急外来副看護師長　尾﨑浩美

欅会の皆様、新年あけましておめでとうございます。私は関東中央病院救急外来に所属し、毎週金曜日は日本糖尿病療養指導士の資格を活かし、糖尿病療養指導・フットケア外来を行っています。2016 年より外来を開設し 10 年目となりますが、欅会は 50 周年を迎えました。昨年 11 月 29 日には欅会 50 周年式典が開催され、皆様のお力添えにより大きな節目を皆様とともに迎えることができました。

欅会は 1975 年の創設以来、糖尿病に関する正しい知識の普及と、会員相互の親睦を目的に活動を続けてまいりました。当時はまだ糖尿病に対する社会の理解も十分とは言えず、治療手段も限られていた時代でした。そうした背景の中で、患者の皆さまが病気と向き合い、自らの生活を見直し、療養に主体的に取り組むことは大変な挑戦であったと思います。欅会はそのような患者の皆様の思いに寄り添い、患者同士が学び合い、支え合い、励まし合える場として誕生しました。糖尿病教室・例会・会報などを通じて共有された知識は、治療以上に大きな意味を持ち、日々の生活を支える確かな力となってきました。

この 50 年の間に、糖尿病治療は大きく進歩しました。血糖測定技術の進展、インスリン製剤や経口薬の多様化、運動療法や食事療法の体系化、そして療養指導の確立など、患者さんの選択肢は大きく広がりました。一方で、療養生活は依然として日々の判断と継続を要するものであり、時に孤独や不安を伴うこともあります。だからこそ、患者の皆様が仲間とつながり、同じ経験を共有し、時には乗り越えるためのヒントや支えを得られる場として、欅会の存在は価値を持ち続けています。糖尿病は一人で抱えるものではなく、周囲の支えとともに向き合っていくものです。

創立 50 周年を迎えた今、欅会がこれまで途切れることなく活動を続けてこられたのは、患者の皆様の思いと努力、そしてその背中を支え下さった医師、看護師、管理栄養士をはじめとする多くの医療スタッフ、病院関係者のご協力のおかげです。ここに心より感謝申し上げます。これからも療養は続きます。しかし支える手も途切れることはありません。次の 50 周年に向けて、欅会はまた新しい一歩を踏み出します。医療は今も進歩を続け技術や情報の活用も加速していきます。しかし、医療がどれほど高度化しても、療養の中心にあるのは“毎日の生活”であり、そこにある迷いは決して機械では代わりに担えません。

今後も欅会がさらに多くの笑顔とつながりを生み、糖尿病を支える会であり続けることを願い、医療スタッフも尽力してまいります。